

科 目 名	担当教員名	曜日・時限
論述問題演習	福岡英明	サマーセッション

<p>●授業のテーマ 現代日本の諸問題に関する小論文問題演習・集団討議等</p> <p>●授業の内容 公務員試験では、専門試験以外にも、論文試験・集団討議・個別面接などが実施され、そこでは主として政策論が問われます。本演習は、これまで馴染みが少ないであろう政策論を実践的に学ぶプログラムであり、主として地方公務員(上級)などになることを念頭におきつつ、我が国で生起する様々な社会問題の中からテーマを設定し(具体的には、高齢化社会・治安維持・地域の活性化・防災など)、実際の試験の過去問をも用いながら、論文問題演習・集団討議・個別プレゼン等の訓練を行ないます。</p> <p>●到達目標: 以下の点につき、論文としてまとめることと、口頭で相手に伝えることが出来るようになる。 ・現代日本の社会問題、特に公共的な政策的課題について、現状と問題点を説明できる。 ・問題点に対して実現可能な解決策を提示できる。 ・自らの考えを論理的かつ説得的に説明できる。 ・時々刻々変化する社会の問題に問題意識を持ち続ける。</p> <p>●注意事項 マス目のある原稿用紙(A4)を用意しておくこと。</p>

<p>成績評価の方法・基準</p> <p>●平常点 100% 授業時の論文問題演習・集団討議・個別プレゼン等において、「到達目標」で挙げた諸点につき、論文としてまとめることが出来たか否か、また、口頭で自分の意見を相手に伝えることが出来たか否か、その他演習への貢献度により評価する。</p>

<p>教科書</p> <p>●特に指定しない。</p>

<p>参考文献(コメント)</p> <p>●吉岡友治『地方上級・国家一般職[大卒]・市役所上・中級 論文試験 頻出テーマのまとめ方』実務教育出版 ●鈴木鋭知『公務員試験無敵の論文メソッド』実務教育出版 ●高瀬淳一『公務員試験 論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント』実務教育出版 ●大賀英徳『公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本』実務教育出版 ●山下純一『論文試験の秘伝』TAC 出版 ●山下純一『面接・官庁訪問の秘伝』TAC 出版 ●『公務員試験受験ジャーナル』『公務員試験学習スタートブック』実務教育出版 その他、必要なものについては適宜指示します。</p>

授業計画	
授業計画	<p>9月10日(火) 第1回～第4回 小論文の作成と検討</p> <p>9月11日(水) 第5回～第8回 小論文の作成と検討</p> <p>9月12日(木) 第9回～第12回 プレゼンテーション</p> <p>9月13日(金) 第13回～第15回 グループ・ディスカッション</p>

<p>授業計画の説明</p>	<p>9月10日(火) 第1回授業時間内に小論文を作成し、第2回授業時にそれを相互に批評・検討する。 同様に、第3回授業時間内に小論文を作成し、第4回授業時にそれを相互に批評・検討する。 受講者は、教員提出分も含めて人数分コピーし配布すること。 コピーは、100周年記念館1階共通教育センター事務室で、「論述問題演習」で利用する旨伝えて、 備え付けのコピー機を利用する。</p> <p>9月11日(水) 同上</p> <p>9月12日(木) 受験を予定している自治体(都道府県、市区町村)の地理、歴史、気候・風土、人口動態、世帯構成、 産業、予算・財政、直面している課題とこれに対する政策の策定・実施状況などが記載されたレジュメ を配布し、これにもとづいて、各自、口頭で報告し、質疑応答を行う。 質疑応答も含めて30分とするので、報告は20分程度とする(受講者の数によって変動する)。 直前になってあわてて準備しないように、十分に時間をかけること。</p> <p>9月13日(金) 複数のグループに分かれ、討議し、結論をとりまとめ、メモを作成し、これにもとづいて発表し、質 疑応答をする。</p>
<p>授業時間外の学習方法</p>	<p>受験を予定している自治体(都道府県、市区町村)の地理、歴史、気候・風土、人口動態、世帯構成、 産業、予算・財政、直面している課題とこれに対する政策の策定・実施状況などを、各自治体のホーム ページなどで調べておく。とくに、全国的に各自治体に共通する政策課題については、国の各省庁の ホームページなども参考にするとよい。</p>
<p>受講に関するアドバイス</p>	<p>1日に4コマないし3コマ受講することになるので、体調の管理に留意すること。</p>